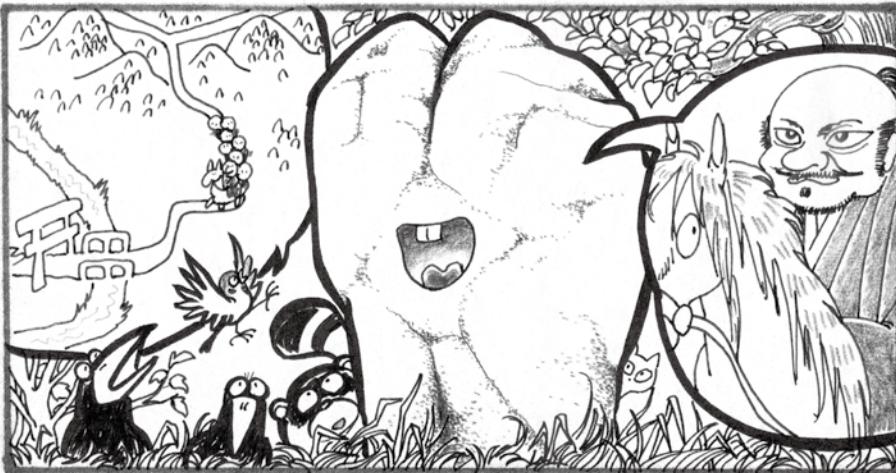
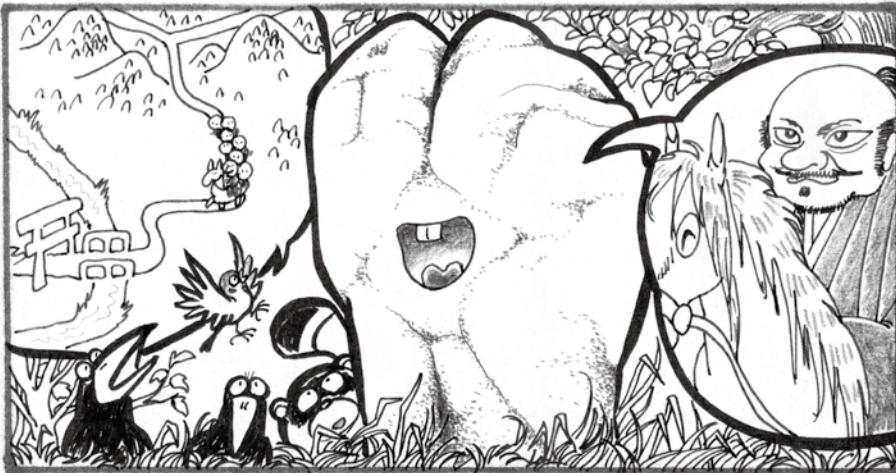


上下の絵を見くらべて、まちがいを8カ所見つけてね。全問正解された方のうち、抽選で10人の方に図書カードもしくはラブーナの湯無料利用券をプレゼントします。

応募締切

3月18日(火)

とうふねこ座：市川雅子 画



企画広報課 ☎66♦1145

## 応募方法

ハガキまたはファクスに、①答え(左の絵に○をつける)と②住所・③氏名(ふりがな)・④年齢・⑤電話番号・⑥広報紙の感想、ご意見などを書いて応募してください。なお、当選者のお名前を広報がまごおり5月号に掲載しますので、ご了承ください。

## 送り先

〒443-8601 旭町17-1  
企画広報課「クイズ」係  
FAX66♦1190

## たび石(拾石町)

拾石の素戔鳴神社(すさのおじんじや)の急な坂を登ると、本殿があり、シンとした境内に入っていく。鳥居の右のはしっこでさつきからそわそわしているものがある。

それは、足袋だ! いや、キングコングが覆っているみたいなでっかい足袋の形をした石だ。

「おいすすめどん、松平の家忠様は今のへんじや?」とその石が聞いた。

「ちゅんちゅん、松平の殿さんは深溝城を出たとき」ソフソフソフ

「おいすすめどん、松平の家忠様は今のへんじや?」

「ちゅんちゅん、松平の殿さんは幸田と竹谷と拾石の分かれ道にさしかかったとき」ソフソフソフ

「おいすすめどん、松平の家忠様は今のへんじや?」

「ちゅんちゅん、松平の殿さんは拾石のメインロードを下りてきて、右に曲がってー左に曲がってー右に曲がってー拾石川に来たとき」ソフソフソフ

「おいすすめどん、あ、足音だ!」

大勢の家臣を従えて松平家忠は本殿を参拝した。それからクルッと向きを変え、端っこで草に埋もれているたび石の前にやってきてひざまずいた。

「たび石、わしはこれから浜松城の家康様にお目にかかりに行く。いつものように皆無事に行ってください。ようになんぞお護りください。パン、パン」

そして家忠はゆっくりたび石をさすると、すくと立ち上がり、

「皆の者、出立じゃ!」

家忠は海際の道を通り、地蔵が崎から犬飼湊に行き、船で浜松へ向かって行った。

「ちゅんちゅん、また頼まれちゃったね。たび石」

「うん、旅の安全はおいらにまかしょー」

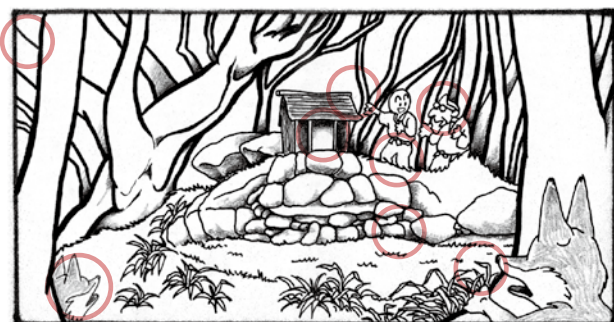
「ちゅん、たび石の足袋と旅つてかあ、たび石ってオヤシ」

「……(苦笑)」

江戸幕府ができる約20年ほど前のことだった。この事があってから人々は家忠にあやかり、たび石に無事を祈願して旅に出たそう。

現在、たび石は神社の拝殿奥に移され石組の上に祀られています。その上を椎の木が覆いやさしい空間を作っています。

【参考資料】 拾石村誌 塩津村誌  
「蒲郡風土記」著者・伊藤天章



## ◆1月号の答え

1月号クイズまちがいがいさがし(大塚の田の神様の当選者応募総数68通 正解者63人)

当選者(敬称略・50音順)

竹谷町	天野やす子
竹谷町	伊藤千恵
大塚町	大岡和利
西迫町	蟹江裕子
西浦町	壁谷江美子
緑町	田中幸一
形原町	坂さおり
水竹町	山野玲子
港町	吉見奏葉
形原町	渡辺莉子

おめでとーございます。賞品は3月初旬に発送します。